

秋田スギ研究で助成金

大館の財団 事業に採択 紙系化の可能性探る

弘大大学院・八島さん

弘前大学大学院農学生命科学研究科2年の八島光勇さん(24)による秋田スギの活用に関する研究が、大館市の一般財団法人東光虹川ものづくり財団の今年度研究助成金事業に採択された。助成を受け今年度、秋田スギの紙系化・繊維製品開発の可能性に向け、秋田スギの配合比率を高めながら紙系の原料となる薄葉紙作成に取り組み。

(西尾 瑛)



同財団は、大館市に拠点を構える鉄工を中核とする東光グループが2019年に設立したもので、ものづくりを通じた地域の産業振興に寄与する研究などを対象に研究助成を行っている。今年度、大学・研究機関に研究助成を受けた八島さん

関を対象とした助成では八島さんを含む3件が採択を受けた。

八島さんはこれまで、指

導教員である教育学部技術教育講座木材加工研究室の廣瀬孝准教授の下、企業などと共にニセアカシアやリンドゴの剪定枝を原料とした紙や糸、布製品の開発研究に取り組んでおり、これらのノウハウを生かしつつ今回、100万円の研究助成を得て、大館市の木でありブランド衫としても名高い秋田スギの紙系化の可能性を探る研究に着手する。細く裂いて燃えることで糸化が可能な薄葉紙作成を目指し、秋田スギの比率も、最大半分程度までに高めることも目標だ。

採択について八島さんは「まさか受かるとは、という気持ち。これまでの研究における他の材料でも、布化まで到達すると、活用の広がりがイメージしてもらいやすく、手応えを感じていたので、秋田スギについてもまずはしっかり薄葉紙を目指したい」と話した。

この画像は、当該ページに限って”陸奥新報”の記事利用を許諾したものです。転載ならびにページへのリンクは固くお断りします。